

#### 4. おわりに

本研究では、東アジア地域に視点をおき、中でも荷動きが盛んな対北米コンテナ貨物を対象に、コンテナ貨物流動の実態とその動向について分析を行った。その結果、以下の事柄が明らかになった。

- ・コンテナ貨物の流動の動向分析については、港湾を通過する貨物の流動パターンを設定したことにより、東アジア地域と北米地域との国・地域間におけるコンテナ貨物の流動構造や特性が明らかとなった。
- ・東アジア地域における対北米コンテナ貨物の最大発生地域は中国で、その量は他に比べ非常に多く、またその増加は著しい。一方、最大集中地域は日本となっている。
- ・フィリピン、インドネシア、タイ、マレーシアの4ヶ国の対北米コンテナ貨物の大半が他国の港湾を経由するフィーダー貨物となっている。
- ・日本の主要港湾の対北米コンテナ貨物については、直行貨物とトランシップ貨物を合わせた本船積み卸し貨物が大半を占めている。

世界のコンテナ輸送を取り巻く環境は常に変動しており、東アジア地域のみならず、世界の社会経済状況に大きく影響を受けるものである。近年における世界経済の減速やタンジュンペラバス港の開港といった要因により、今後は東アジア地域における港間の競争が一層強まっていくと考えられる。このことから、常に最新のデータを用いた継続的な分析を行っていく必要がある。

(2003年6月2日受付)

#### 参考文献

- 1)商船三井営業調査室：定航海運の現状－規制緩和と大競争時代の国際コンテナ輸送－1997/1998, 1998年
- 2)商船三井営業調査室：定航海運の現状－新たな成長期に向けて－1999/2000, 2000年
- 3)商船三井営業調査室：定航海運の現状－「自由競争」と「共生」新しい枠組みを求めて－2001/2002, 2002年
- 4)The National Magazine Co.Ltd.:Containerization International Year Book,1991-2002年
- 5)松尾智征, 高橋宏直：東アジア地域に視点をおいた対北米コンテナ貨物流動に関する分析, 港湾技研資料 No.960, 2000年
- 6)白井宗一郎, 高橋宏直：東アジア地域に視点をおいた対北米コンテナ貨物流動分析(2001), 国総研資料No.18, 2002年
- 7)The Journal of Commerce :PIERS(Port Import/Export Reporting Service), 1999年, 2000年, 2001年